

朝日町MaaS実証実験推進協議会（富山県朝日町）

## 「お互い様」の気持ちで子どもたちの 安心・安全な送迎を

INTERVIEW



### 「ノッカルあさひまち」を子どもたちの 習い事にも適用

富山県朝日町では、2021（令和3）年から、新しい公共交通サービス「ノッカルあさひまち」の運用を開始している。ノッカルあさひまちは、会員登録した住民が1回600円の利用料（回数券制）で自家用車に相乗りし移動する仕組みで、予約は電話やLINEによるマッチングを活用している。今回のプロジェクトは、ノッカルあさひまちは子どもたちの習い事の送迎にも適用しようというものだ。

「子どもたちの移動は重要な課題のひとつでした。自宅と学校との行き来はスクールバスがありますが、放課後に習い事等へ通う場合はスクールバスのルートから外れてしまうため、徒

歩や保護者の送迎に頼らざるを得ません。一方で、夫婦共働きの世帯が多い中、祖父母が送迎する場合がありますが、子どもたちが親に遠慮して習い事をあきらめてしまうケースもあります。このような実態に、ノッカルあさひまちは根幹にある『お互い様』の気持ちでアプローチしようというものです」（朝日町住民・子ども課 小谷野黎氏）。

また、運営の中で浮き彫りになったノッカルあさひまち自身の課題もある。現状のドライバーは60代が多く、高齢化に伴う担い手不足が懸念される。持続可能な形として運用していくには、地域の移動課題を多くの人に知ってもらい、事業への賛同者を増やしていく必要がある。

## 課題はドライバーの確保と料金体系

今回の実証では、共創のパートナーでもある、ふるさと創造社が運営する「らくち〜の（スイミングスクール）」への送迎を対象としている。

「町内最大の習い事スクールであり、<sup>にゅうぜんまち</sup>入善町や黒部市など近隣自治体から通う子どもたちもいます。スクールの無料送迎バスも運行されていますが、乗車定員があり、また、体調不良などで休んだ場合、別日へ振り替えると送迎バスを利用できない実態があります。このような既存の施設サービスでは賄いきれないニーズを、ノッカルあさひまちの仕組みで補完できないかという趣旨です」（小谷野氏）。

「こどもノッカル」では、スイミングスクールに通う子どもたちの保護者がドライバー対象となる。現在登録は7名で、自分の子どもを送迎する時に、近所や通り道に住む他の子どもと一緒に乗せる仕組みである。予約はLINEを通して行うが、現状はマッチングが成立しづらいという課題がある。

「スクールの営業日は週5日、かつ教室は16時、17時、18時とコマが分かれています。これだけのパターンがある中でマッチングするに

は、7名ではドライバーが足りないのが現実です。また安心・安全を考慮して同じコミュニティ内の顔見知り同士が助け合うことが基本なので、ドライバー対象を拡大することも容易ではありません。現状は登録したドライバーに自身の子どもの教室以外の曜日にも運行いただくことがあり、サービスの理解促進や周知を強化することで、協力者を増やしていきたいと思えます」（小谷野氏）。

加えて、料金設定の問題もある。サービスを維持するには無料では困難だが、らくち〜のスイミングスクールが運行する送迎バスが無料であることから、こどもノッカルで料金を徴収しにくい事情がある。

「今後はサービス対象を他の習い事にも広げていきたいと考えていますが、利用者負担額をどうするかは検討課題です。たとえば月謝と合わせて定額にしたり、塾や施設側に負担をお願いしたりという可能性もあります。将来的には地域交通統合サービスとして、ノッカルだけでなくタクシーやコミュニティバスなども合わせたサブスクリプションモデルを実現したいと考えています」（小谷野氏）。

